

KAL 007 便の生存者とロシア連邦の強制労働収容所

バート・シュロスバーグ

ほとんどの人にとって、現在ロシアに強制労働収容所があるという事を理解するのは、全く受け入れ難い事でしょう。しかし、現実は今なお存在するのです.....

KAL 007 便の墜落事件から現在までの期間というのは、ソビエト連邦の時代に始まり、その崩壊、そしてロシア連邦の出現へと続いているのです。

まず、第一にヨシフ・スターリンの恐怖政治のもとで、少なくとも2000万人もの人間がソビエトの強制労働収容所で、肅正された事は一般的に広く知られている事実です。これらの収容所のいくつかは捕虜になった外国人専用につけられたのです。そしてロシア連邦統治のもとで全ての収容所は解体されたと一般的に思われていますが、それは本当なのでしょうか？

そのような強制労働収容所は以下の状況によって特徴づけられています：

1. そこにいる囚人は外国籍の収監された人たちであり、意志に反して働かされ、労働の割り当てに見合う十分な賃金（意欲を持って労働するような状況ではない）もなく、ささいな見返りしか与えられないのです。
2. その囚人がもし労働割り当てを満たす事が出来ず、または脱走しようとするなら、脅しを受け、身の回りの物を剥奪され、拷問を受ける事になります。
3. そこでは囚人を監視するやぐらが存在し、武装した警備員が誰も脱走しないように見張るために配置されています。身勝手な処刑が行われ、しかもそれは常習的に行われているのです。
4. 人間の尊厳価値である「モチーフ — 動機」と同様に、個人の主張、個人的特質の表れは情け容赦なく抑圧されているのです。

上記の4つの特徴は現在、ロシア連邦の収容所において存在し続け、ほとんどの入手可能な情報源である世論 — ロシアとその他の国の新聞 — によって立証されています。KAL 007 便に関して、これらの強制労働収容所のいくつかは、1990年代にKAL 007 便の乗客の何人かが収容されている地域であると報告された同じ場所にあるのです。

最近、ニュースに頻繁によく出る国—北朝鮮を取り上げて、この事柄を掘り下げて行く事にしましょう。最近、北朝鮮は日本から援助を得ようとして、日本の小泉純一郎首相に対して日本

が20年間に渡って、11人の民間人の日本人が北朝鮮に拉致され、抑留されていると主張してきた事を認めたのです。巻き込まれた拉致被害者は、ヨーロッパ旅行中に失踪した大学生であり、浜辺を散歩していた時に北朝鮮の潜水艦の作業員によって捕縛され、拉致されたカップルであり、海辺にある自宅から誘拐された13歳の少女、出張中に突然行方不明になったサラリーマンなのです。

2002年、9月5日の「カナディアン・ナショナル・ポスト」が報じたように、これらの人々は「北朝鮮のスパイが彼等の身分証明を盗み、彼等によって北朝鮮のスパイに日本の習慣を身に付けさせ [いわゆるソビエト式のチャーム・スクール；全く惨い話ですが]、または単に彼等自身を洗脳し、スパイにならせるために」拉致されたのです。

大韓民国は、400人を超える市民が同じ目的のために北朝鮮に同じように拉致されていると主張しています。

現在、北朝鮮が自国の国民を、反体制派の人間と同様に最高で2万人をも拉致し、ロシアの強制労働収容所に送っている事が分かってきています。

サンクト・ペテルブルグ・タイムズ、2001年4月14日号

平壤はソビエト時代の慣習を続けていて、ロシアに対する負債を自国の年季奉公人を送り、シベリアに至る所にある木材伐採場でただで働かせる事により支払っている。一人の官僚が
— 名前を明かさないとという条件で — 昨年、北朝鮮はロシアに対する38億ドルの負債の内およそ5000万ドルをこの方法で支払っているという事を明かした...

「彼等を見るととても哀れに思う。みんな洗脳されているように見える。」プリモリエ地域の地方入国管理局副局長のタイシア・ロザンスカヤは言う。「彼等はキム・ジョンイルの写真のバッジを身に付け、1週間に2回、政治集会に出なければならない」

アムール地方付近の極東地域で、ロシアの民間の株式会社であるティンダ・レスは1500人の北朝鮮人を、今ではみなが過去のものと思っていた労働キャンプで働かせている。株式会社ティンダ・レス最高経営責任者補佐のイワン・ガイェフは労働者の賃金が支払われているか、十分な待遇を受けているかという質問に対して回答を拒否したが、「..... 会社は北朝鮮人が伐採した全ての木材の66パーセントを受け入れ、その残りの木材は北朝鮮政府側が受け入れている.....」

アムネスティ・インターナショナルは1996年にその労働キャンプは北朝鮮の悪名高く非情な公安局(PSS — Public Security Service)によって、運営されていて、そこには牢獄も存在したと言う事実を..... 報告した。アムネスティは、また彼等がPSSによって拷問され、処刑も行われていたという目撃証言を報告している。

モスクワ・タイムズ、2001年8月7日号

彼等は労働キャンプでただで、もしくは「ささいな」給与で、彼等の国のモスクワに対する借金を支払うために働いている。人権活動家は過去に少なくとも、キャンプを離れる自由を彼等が持つ事は無く、多くの者が拷問され、実験的に殺されもしたという事を報告している。

ザ・スコッツマン、2001年8月7日

その労働キャンプはおそらく共産主義の終焉とともに閉鎖された。しかし、モスクワでの報道によると、それらは存在し続け、北朝鮮がロシアに対する5.5億イギリスポンドを支払う方法として用いられている。ロシアはその労働力の見返りとして北朝鮮の債務を1年につき3千5百万イギリスポンド削っている。およそ3万人の北朝鮮人が粗末なバラックで寝て、ストライプのシャツと青のズボンを着用する囚人スタイルの服を着て、ほんのわずかか、全く賃金なしで働いていた。

「私たちは知っているんです」ニューヨークが拠点の擁護団体「人権ウォッチ」の代表代行のレイチェル・デンバーは言う。「ロシアの警察は北朝鮮人が住んでいると思われている木材伐採場の警備に関わっているのです。その事は、明らかにいくらかのロシアからの強制力があるという事を意味するのです」

ある場合において監視人がロシア人であるか、またはその他の場合において北朝鮮人であるか、そしてロシアが直接、またはティンダ・レスのような株式会社を通して間接的に利益を得るかという事に関わらず、「ロシア連邦という国において現在外国人用の強制労働収容所はあるのか？」という質問に対して、答えはイエスであると声高に言えるのです。

* * * * *

KAL007便との関連は、十分想起させてくれるものでありますが、確定的でもないのです。しかしこのような事実は私たちの思索を思い巡らせるだけです。—というのは乗客の生命が危険な状態にあるからです。今日の強制労働収容所の地域は、イスラエルのソ連強制労働収容所、精神矯正収容所リサーチセンターが1990年中頃に、撃墜され海面に不時着水したジャンボ機の捕虜になった乗客のために用意された場所であるという事が十分あり得ると報告しています。この場所はシベリア東部の中国—ソビエト国境を平行しているアムール川沿いのタイガ密集地域なのです。ホームページのwww.rescue007.orgにその事が詳しく描写されています。

1983年8月31日に撃墜された大韓航空機007便の乗客と乗組員の行方に関する私達の知識は第一に、ソビエトの強制労働収容所、精神矯正収容所リサーチセンターから受け取った情報に基づいています。このリサーチセンターは自分自身がソ連の収容所システムに送られたイスラエル人の最近亡くなったアブラハム・シフリンによって設立されました。赤軍の少佐、クリミアの北東のクラスノダール地域の検察官として、彼は矯正収容所に多くの人間を送っていたのです。彼自身がアメリカとイスラエルの為のスパイ活動をしたという理由で有罪判決を受け、旧ソ連の最も過酷な収容所で10年間服役したのです。それからカザフスタンで7年間の流刑となりました。シフリン氏はソ連とその後継国家において広大な人脈ネットワークを維持していました。私達が有している情報の多くは、彼の偉大なリスクをかけた人脈の接触によって得られたのです。

1989年から1991年にかけてのセンターの調査は、KAL007便の乗客と乗組員は救出の後すぐに、サハリン島のKGB沿岸警備隊に連行されたという事を結論づけました。2、3日以内に(1983年9月4日までに)ウラジオストックのおおよそ600マイル北の、サハリン島と向かい合ったシベリアのソベツカヤガバンのKGB基地に皆は連れていかれました。ここで男、女そして子供はそれぞれ別のグループに分別されたのです。男と女は列車でおおよそ800マイル内地のバイカル・アムール鉄道上のティンダに連れていかれ、そこで少なくとも幾人かは強制労働収容所に入れられたのです。大人の男性はある時点で、シベリア中の沢山の様々な収容所に送られ、その収容所のいくつかは、アメリカ人の戦争捕虜と他の外国人の囚人を収容していると考えられている収容所だったのです。これらの収容所は完全に隔離されて、周りに村が全くない外国人用の収容所と定義されています。通常、囚人が収容所から釈放されると、彼らは収容所近郊で流刑人として生活することを要求されるのです。彼らの家族もそこに住み、村は収容所の周りで大きくなるのです。外国籍の囚人は釈放されません。それゆえ彼らの収容所の周りには村というものは無いのです。

情報源は、男性の乗客と乗組員のほとんどは一連の、中国との国境から遠くないザポクロフスクという村の近くのアムール川に沿った濃密なタイガ地域の3つの極秘収容所に連れて行かれたと言っています。これらの収容所は、アメリカ人の戦争捕虜がいたと知られているのと同じ収容所です。それらの敷地はとてつもなく広く、冬期は、80から90の煙突から煙が立ち上っているのが見えるのです。それぞれのバラックには2つか3つのストーブがあり、収容所には、30かそれ以上のバラックの住居がありました。不幸な事に、その収容所に着き、視覚的に乗客を確認しようとした試みは、その地域の厳重な警備のために失敗に終わったのです。

さらなる収容所は、ソビエト軍極東戦域司令部があるチタ地域のネルチンスク、ネルチンスキー・ザボードと他の場所にありました。(FAQ10の「生き残った乗客と乗組員は、ソビエト軍に捕えられた後どうなりましたか?」から抜粋しています)

調査しようとしている他の地域は、シベリア沿岸からおおよそ800マイル内地のバイカル・アムール鉄道沿いにある木々が密集したティンダです。この地域はまたセンターの調査官により特に1人のKAL007便の乗客と関連している地域であると指定されています。（北朝鮮の労働者の仲介者として関わっているティンダ・レス株式会社の名前はこの地域から取られました）

情報源はシベリアのティンダ地域で木材伐採に従事させられていた1人の東洋人女性に関する情報を提供してくれました。1985年に先立って、彼女は仕事場における事故により、左腕の肘より下の部分を失ってしまったのです。（FAQ10の「生き残った乗客と乗組員は、ソビエト軍に捕えられた後どうになりましたか？」から抜粋しています）

最終的に言われている事は、共産主義による崩壊した経済を改善するためにこの何百万もの広範囲な奴隷労働という搾取を許してきたソビエト時代の精神性が、ロシア連邦に移行したのちにも何万人もの「年季奉公人」を強制労働させることによって何十年にも渡る債務返済計画を行わせ、「年季奉公人」を「物」として受け入れさせているのです。

KAL007便の捕虜になった乗客はこのソビエト時代の精神性の手中に陥ってしまったのでしよう。